（一日夕刊）
磐城新聞
休刊　大祭日、第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢
廣告料　二行三十錢指定廿錢増
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

田中總裁の長逝

ひろし、はしもと生

政友會總裁田中義一男のにわかに長逝されたことは誠に悼ましき極みである。天壽は人力の左右し能はざるところで、今更起死回生の術はないが時も時、折も折で政友會には清黨運動なども起らんとする形勢だと傳へられ、また必然的に黨首の更迭說さへも報せられてゐる今日、田中總裁が胸中果していかなる意圖を抱いてゐたがあるひは時期を見て勇退するのではないかといひ、あるひはまた一層發奮して政友會のためにも巨工の信望を新たにするためにも、敢然邁往するのではないかともいひ、獨り政界のみでなく、世間一般から田中總裁の行藏進退は頗る注目されてゐたのである、しかるにその田中總裁が紛々たる政治的の毀譽褒貶の裡に政友會がいまや將に一大受難を招來せんとするの秋に當つて、忽焉として逝つたのであるから、政友會はもちろんのこと多くの政敵といへども蕭然たる田中總裁の最期に對しては一掬同情の涙を惜まないであらうと思ふ。

田中總裁の、政治家としての手腕については未だ世に定論はないのであるが軍人出身の政治家としては先づ成功を收めたものといふべきであらう。それだけ政治的の手腕に富んでゐたともいひ得るであらう。もちろん、慾をいへば際限がなくその始めに當つてあまりに多くの期待をかけたものから見れば田中男がいよ〳〵舞臺に立つてからの行動に對して多少の失望を感ずるでもあらうが、元來田中男はいはゆる長閥の寵兒といはれて軍人としては十分に駿足を伸ばし得たものといはなければならぬ。即ち、故山縣公の衣鉢を繼ぐといはれた田中男がたま〳〵政界に進出し來つたのであるからこれに多大の期待をかけるのはあるひは當然であるかも知れぬ。しかして政界進出後における成敗の跡を見ればどうであるか、あへて世間の期待は副はなかつたといへば、それまでゞあるけれども田中總裁の政治家としての生涯もまた光輝あるものといつてもよからう。しかしそれはわれらが外間においては推測し揣摩することであつて田中總裁自身としては、なほ前途に多くの希望を有しまた抱負と經綸とを藏してゐたに相違ない徒らに志を黄泉に齎すは丈夫の痛恨事である。政治家としての田中男の功罪を詳論することは、いましばらくこれを避けるであらう。單に政界がこれよりいよ〳〵多事であるばかりでなく、わが國內外の政情は日にます〳〵多難を加へんとする秋、田中政友會總裁の逝去したことはわれらの國民と共に深く悲しまざるを得ないところである。こゝに滿腔の弔意を表する

四課題

根本園駄句

毒草と知らで豐顏手折りけり

瞳に上る痛さにしるむ海月かな

一夜酒御緣となりし懸意かな

紙魚通す古き系圖や家寶哉

朝露に袂ぬれけり夏野原

友へ

不二美生

友よ
これから働くよ
そうです
今日の今から
懸命に働くよ
女を戀する代りに
働くよ
奴隷の如く
無中になつて
働くよ——
友よ
俺は働くよ
俺は働くよ
働く氣持で
働くよ
大方
俺の働くことは
生涯
續くであらう

開日の吉凶

舊曆八月三十日　新曆十月二日

▲一白　突飛な擧に手を出さずは案外の成績を見る▲二黑　計畫に粗漏なくば次第に發展し行くべし▲三碧　物事もつれを生じ易し飲食物にも注意を要す▲四綠　外に對する威勢あれども內に淋しき所あり▲五黄　圓滿平和を目標とすれば德望一身に集まる▲六白　物事の調子に變動を生じ意の如く成らぬ日▲七赤　多少外界の支障はありとも進路に差支なし▲八白　小なることに心を痛めず大處に着眼すべし▲九紫　事は努力次第にて成るの時障害にたわむなかれ

小說

死を超ゆる者

(101)

三上於菟吉作
布施平八郎畫

新らしい味方（二）

「今朝程濱でお目にかゝつたもので厶いますから、お久しぶりでお逢ひ申ましたので宿までちよいとお招ぎしてそれからお伴をしてお邪魔に伺ひました」

和子は蔑すみを外に出さない、柔しい靜かな聲音でこれだけのことを言つた

間はまた低く頭をたれた

「いや、それはどうも……でたくさんは御主人と——頭取と御一緒に御避暑で厶いますかな、頭取には屢々お目に懸つてをりますが御別莊にでも」

「いゝえ宿屋棲まひで厶いますの岡田のお嬢さんと一緒にあすこの曉鷄館のはなれにをりますので……」

「おゝ、さうでございますかそれはまあ宿屋棲まひでは何かと御不自由なことでございませう」と間は自分の夏屋敷の滿洒を誇るやうに

「手前の假屋はこんな手狹ではありますが……御遠慮なくしじゆうお遊びにいらつしやるやうに……おゝ岡田のお嬢さんは大層大きくなられましたな、手前はあんたが極くちひさい頃お抱き申したこともありますわいはゝゝ。覺えておいでゞすかな」

妙子は聽くも總毛だつといふやうに眉をしかめた。とは言へ居ではほゝゑんでゐた

「たゝそうでございましたか、一向……私、何でも物覺えが惡いので學校でもよく叱られてばかしをりますの」

うまく反されて出まかせのお世辭を言つた間は苦笑した

「あゝあ、物覺えが惡いのはいけませんな——物覺えが惡いのはいけません」とひとごとのやうに言つたがチョッキのかくしから大きなプラチナの時計を引出して一瞥して

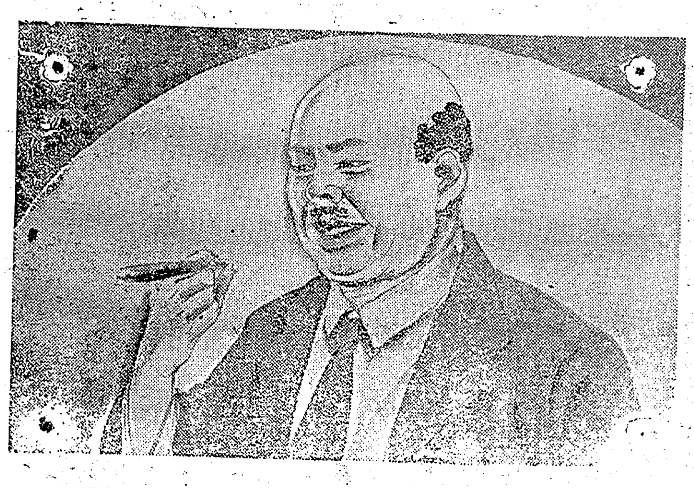
「たや、もう時間がない折角のお出でのところをまことに失禮ではムいますが今日よんどころのない仕儀でちよいと歸京せねばなりませぬで……いづれ後日ゆつくりおわびをいたしまする。どうかごゆつくりとお遊び下さい。御遠慮なくごゆるりと願ひます」

「私たちこそ押かけて伺ひまして反てお忙しいところをお邪魔致しました。どうかそれでは有難うぞんじました」と和子は詫るやうに言つた

あたふたと出て行く間を見送りに出ることさへとき子は氣が重いやうであつたが年上の和子に眼くばせをされてやむなく座を立たとき子はわざと間がいよ〳〵玄關へ出て今車に乗らうとするばかりになつたところへ姿を現した。

車に乗かけた間はじろりとき子を眺めて苦く笑つた。けれどもとき子は氷のやうに冷たくたゞ叮嚀に頭を下げた

「急げ、もう時間が迫つてゐる」と間は車上で邪けんに車夫に叫んだやがて車は門を出て松林にかくれ去つた。とき子はホツト吐息をして客間に歸つた。間がゐなくなつてからとき子は心の底の憂鬱をのがれ去ることは出來なかつたとは言へたしかに人違ひがしたかと思はれる程氣輕になつたトランクの底にかくされたまゝ此地へ來てから出されたことのないビクタリア蓄音機も持ち出されて西歐の名曲が圓盤から流れ出した



吉田眼科醫院

ヒゲタ醬油
宮內省御用達
銚子醬油株式會社

特約店
平町田町
廣瀬支店
電話五四番

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋
(久)釜屋商店
諸橋久太郎
電話九番　一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は(久)の生命なり

緊縮と輸入防遏
純國產品で正確堅牢なる
セイコー腕時計を
皆樣へ切に御薦め致します
◎宣傳の爲め抽籤特賣
一等　復興債券（額面百圓）　六十本
二等　蓄音器（三笠號市價七十五圓）　百二十本
三等　置時計（八日町マホガミ市價三十五圓）　三百本
四等　目覺時計（角形市價六圓五十錢）　千三百五十本
五等　机上時計（市價二圓廿錢）　五萬八千二百本
（期日十一月三十日迄空籤なし）
特約店　大谷時計病院
電話一九番

素晴しい好評!!
婦人世界特選（圖案ハ全國一流ノ大家）
壹萬五千圓大懸賞付（空クヂナシ）
足利本銘仙　近代調銘仙大賣出し
婦女界推奬（名作カラ暗示ヲ得タ）
大懸賞々品付（空クヂナシ）
八王子高級　文藝銘仙大賣出し
特長　一、何レモ最高級ノ糸最高級ノ染料　生地ハシナヤカデ非常ニ丈夫デス
一、藝術味溢レル柄行揃ヒニテ秋流行ノ先驅ヲナス逸品デス
一、柄ガ良ク、巾ハ充分デ、丈ガ長ク、而シテ廉價ナ上ニ與味深ク大懸賞景品付デス
平町カジ町
吉田屋呉服店
電話壹貳壹番
詳細ハ店內並ニ婦女界婦人世界十月號ニ發表シテ御座イマス

お八ッに一杯！
冷めたいレツキス
つめたい　おいしい　夏ののみもの
レツキス
發賣元
蜂ブドー
R—121

外科一般（入院隨意）
內臟外科專門
花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

營業種は　石炭　コークス　玉炭
磐城第一の石炭トシテ自他共ニ推稱スル
◎磐城炭礦ノ最上石炭
一、正味十貫目入　壹俵　金六十五錢
◎日本デ一番評番ノ良イ東京瓦斯コークス
一、コークス　壹俵　金壹圓三十錢
◎木炭ノ三倍御德用ナ〇ツノ玉炭
一、玉炭　大箱壹箱　金貳圓
配達ハ一俵ヨリ致シマス
平驛前　(ツ)阿部石炭商店
電話二三七番

內科診療
消化器病科　呼吸器病科
小兒內科　一般內科
入院應需（自炊ノ便アリ）
平町鼠坂
渡邊內科醫院
電話一六一番

生花教授
池ノ坊流　生花を懇切叮寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町十五丁目通り
須藤まつの

◎診療開始
耳鼻咽喉科專門　日本醫大醫學士院長　鈴木正男
齒科口腔外科　日本齒科醫學士科長　高橋正永
◎晝夜診療
下谷區入谷町二九一
入谷改正通り東交番前六間通り
鈴木醫院

伊勢崎　八王子　足利
優秀新柄銘仙陳列　於階上
十月三日ヨリ七日間
秋冬物新柄特選陳列と実用品特賣
モスリン着尺　モスリン友仙
入選新柄陳列　於新館
三井呉服店

平町で賀表奉呈

内親王御誕生を奉賀し
けふ緊急町會

平町役場では内親王殿下御誕生の公報に接するや一日午前十時より緊急町會を開き、内親王殿下御誕生につき賀表奉呈の件を附議し萬場一致起立裡に左の賀表並に賀を踐決議し賀表は宮内大臣を經て賀踐は皇后太夫、皇太后太夫を經て奉呈の手續を取つた賀表左の如し

賀表（料紙大廣奉書）

謹奉賀
内親王殿下御誕生
昭和四年十月一日
福島縣石城郡平町長
從七位勳八等　伏見　彦衛

夜這男を
毆打
平署で取調中

石城郡赤井村字鹽田勝取政治（三〇假名）は去る二十四日夜十一時ころ同村立花はな（二六假名）方に忍入り熟睡中の同女に對し怪しからぬ行爲に及ばんとしたところを家人に發見騒がれて逃走したが折柄集まつて來た上小川村大字上小川鈴木光二（三〇假名）外數名の爲に取り卷かれ棍棒その他で亂打され腸出血を起すまでの重傷を負はされ泣寢入りの形ちで自宅で秘密裡に加療してゐることを平署員が探知若松林司法主任が同地に出張し加害者として二名を取押へ目下嚴重取調中である

黨員の奪取戰に
三ツ巴の混戰
漸く多事ならんとする
石城の無産運動

石城地方の無産者運動の近況を見ると過般安部黨首を迎へ結黨式を擧げた社會民衆黨常磐支部ではその後常磐炭界を中心に各方面に向つて黨員の倍加獲得運動を猛烈に繼續し一方合法黨參加否參加で幾分混亂狀態にある極左系の舊勞農黨系に向つて驅逐排擊に努めてゐた結果今日までには相當の功果を收めその勢力は漸次斯の黄金境たりし日勞黨常磐支部時代の昔に返らんとしてゐるが社民支部がこの進出に刺戟された極左派の舊勞黨系、左派の大衆黨支部は何れも此れまた大衆の獲得運動に向つて全力を注ぐべく密に計畫中であるから今後における常磐地方の無産者運動界は極左、左系の舊勞農黨と大衆黨支部並に社民支部の三者對峙し猛烈な勢力爭奪戰が展開さるべく漸次活氣を呈して來たから久しく沈靜してゐた石城地方も逐次多事ならんとし平署當局も警戒の手を配つてゐる

潮聲會詠草

第二席上吟　秋七草

撫子や洪水跡の砂河原　天仙
爪琴のあるじ見まほし萩の奥　江亭
風なぎて尾花に月の影長し　天仙
萩夕べ風に吹かれてこぼれけり　松堂
葛の花かむりて峽の渦暗し　何鳴
うねうねと流のなりに尾花かな　松堂
廻廊や萩にかざせし小雪洞　江亭
高野にも今ははびこれ女郎花　晩霞
萩咲くや月に友待つ歌の會　瀧堂
開く時露やはぢかん野の桔梗　文狂
添竹をすべりて萩のうねり哉　同

第三　同人雜詠集

芒野や風に垂る穗の向きを替へ　守穗
やせ狗の芥溜あさる葉月かな　同
花賣りの露に親しむ家業かな　同
來し方の悔のみ多き夜永かな　一夢
散り初めて尚未來あり萩の花　同
秋晴やしば鳴き交す軍の鷄　同
勝相撲大手ふるではなかりけり　文狂
寺に寢て芭蕉に雨を聞く夜かな　同
澤蟹の横にも這へず秋の風　萬袋
咲きながらこぼるゝ萩の盛かな　同
秋の色皆集めたり花畑　江亭
此中に親子もあらむ渡り鳥　同
秋晴れてくまなき月の出汐哉　同
朝寒や窓塞ぐべく糊を煮る　天仙
こほろぎや雨に哀れを添へて鳴　同

蟀蟋（こほろぎ）や嵐の底の八重葎（もぐら）　何鳴
ともしらの花に艶もつ秋闌かる　同
枝豆や湯氣の中なる月白し　同
松茸の香のたゞよへる京の町　晩霞
野分してコスモス咲や伏せる儘　同
開かれを集めて暮るゝ秋野かな　同
名月や破れし芭蕉に聲のある　羊臺
酒かめや厨に殘る飯の鳴き　同
朝寒や菜屑流るゝ門の川　中納言
一叢の尾花は風に吹かれ居り　稻村
いとど鳴く蚊屋も病身の寢そらせる　閑月
秋の野やトマト熟せる庭畑　同
海の月山の月見て汽車走る　松堂
月三更さもあらばあれ雁の聲　同
月の夜や古城の眺め只ならぬ　同

平町の有權者
激增
町役場調査中

平町では花澤書記が主となり九月十五日現在による衆議院ならびに町會議員選擧人名簿を作製中である町議選擧資格者の方は今春の有權者と大体において大差なきも衆議院議員の方は前回に比し約四百名の增加を見るらしいが町當局では昨年九月十五日現在の名簿作製の際現に町會議員の職にあつた渡邊貫一氏を登載洩れにして無資格とせしめた事實に鑑み今回は申告主義より調査主義に改め徹底的嚴格調査を行ふ由である

けふ執行の
湯本區議選
定員二名超過

湯本町湯本區會議員選擧はいよ〱今一日町役場內で執行されるが立候補者は湯本區民側から後藤和吉郎、金成嘉吉、渡邊渡、若松幸平、御代富彌、佐藤德兵衛、大友富治、熊文治の八氏入山炭礦側から生田目嘉清、若松修治、須藤熊雄、西原末吉、高橋勇吾の五氏で定員十二名に一名多かつたが三十日湯本區から鯨岡誠祐氏が出で二名を超過した

平町會選擧異議は
參事會も否決
またしても丸潰れの
民政黨の面目玉

平町鈴木庫左右氏外二名が平町々會議員選擧の結果について異議の申立てを縣參事會に提起したこと既報したが右につき縣から吏員が出張二十九、三十の兩日異議申立の內容について關係筋の調査をなしたがこの異議は平町會にたいて先に否決してゐるだけ縣參事會が如何なる裁決を與へるか頗る注目を惹いてゐるが結局平町會にたいて否決したと同樣申立は否決されるものと觀測されてゐるが右は平町民政黨一部の者が或る種の黨略的手段に出でたもので又たしても面目玉が潰れる譯けである

自動車違反
松崎で科料十圓

平町一丁目松崎自動車部では三人乘りの自動車を八人乘りに改造し表面三人乘りの如く裝ひ臨時運轉の許可願ひをなしたのを發覺され今一日科料十圓に處せらる

植田營林署
敷地決定
舊菊田校跡に

石城郡植田町役場では植田營林署に對し新築敷地百五十坪を寄附したいと買收費四千圓を計上町會に提出し民政派議員は極力之れを支持したが政友派では緊縮の現在町費を以て四千圓の寄附は町民の負擔を過重ならしめるものなるを以て絶對に反對を主張し町會は紛糾を重ねて來たが此のほど政友派の主張通り舊菊田小學校跡の敷地百五十坪を營林署に賃貸することとなつた

謎の美人女給
壽技さん平を去る
陸軍大佐の娘に生れ
薄倖な前半生

平町カフエタヒラの美人女給として常連から相當さわがれた謎の美人女給笹川壽技（二〇）さんが平署の怖い小父さんから嚴しい說諭をくらひ今一日永遠の名殘りを留めて平を立ち去つた其の話——謎の美人女給笹川壽技は千葉市江川通り七三後備陸軍大佐笹川通念の長女に生れたが父通念が他界した爲め母きちに伴れられて東京府下北豐島郡板橋町の佐藤郡次郎の許に後妻として嫁したが其の後三年後く壽技が六歲の時實母のきちも病死しその後は繼父の郡次郎が面倒を見て育て上げたところ壽技は昨年暮突然家を出たまゝ行衛不明となつたので郡次郎は心當りを尋ねるうち前記カフエータヒラに居ることが判り歸宅する樣再三手紙で寄せたが容易に歸らず遂ひに平署に說諭方を願出たので平署でも捨てゝおけず今一日主人大沼德造と壽技二人を呼び出し懇々說諭の上即日歸京せしめたが繼父郡次郎は育ての恩を被せて壽技を喰ひ物にせんとする形跡もあるやに傳へられ薄倖な壽技に同情を寄せてゐる

社告

明十月二日は皇太神宮遷御式行はせられ候につき奉敬の意を表し臨時休刊仕り候

昭和四年十月一日

磐城時報社
常盤毎日新聞社
磐城新聞社

白土會温習會

平町喜多流謠曲白土會では二日午後六時から平町仲田町一の井に於いて定例温習會を催するが番組は松風外六

飯場が專門
新之助捕はる

茨城縣久慈郡生れ內郷村大字綴字部野照雄方居住磐城炭礦坑夫神永新之助（三九）は九月中磐城炭礦大友飯場から白米一斗を窃取したのを手初めに各飯場專門の賊を働らいたこと平署に探知され三十日夜桑原刑事に捕はれ目下取調中

無屆地調査
平稅務署努力

平稅務署では來る一日から署內石城郡中通り平町を中心に南は阿部課長、北は金山屬山間部地方高橋屬濱通り地方關根屬の四組に分れ郡內各町村に亘り田畑宅地山林原野を無屆で異動してゐる土地一萬五千筆に對し大馬力をかけ土地の檢査を行ひ新地價等を評定する事となつたが檢査の結果は地內の變更により新地價を以て地租を賦課し得るやうになるからこれにより年々約數千圓の新財源を得ることになるであらうと

落磐慘死
一名は瀕死の重傷

石城郡內郷村大字高坂磐城炭礦高坂坑夫世話人佐藤佐太郎（三四）同坑支柱夫佐藤一次（三〇）の兩名が二十八日午前九時ごろ同坑第二斜坑第四坑において採炭作業中突然落磐あり佐太郎は即死一名は瀕死の重傷を負つた

貸切車に乘り廻る
不審の豪遊客
郡山を荒して平町へ
平署で昨日逮捕

平町驛前住吉屋支店に三十日午前十時ごろ三春町方面から貸切自動車で横づけにして同店に登樓して藝妓四名をあげ豪遊し同日午後一時二分常磐線上り列車で上京せんとしてゐる不審の青年あるを平署員が發車間際に有無を言はせず引下し本署に連行取調ると此の男は本籍栃木縣下都賀郡栃木町字沼渡四四二、七藏二男渡邊兼次郎（三九）と稱し郡山市木村屋旅館の番頭で二十九日朝宿泊人東京市日本橋區田所町青山合名會社員花彰光義（三一）の所持金四百九十圓を大膽にも同人が寢てゐる枕元から窃取し貸切自動車で平方面に逃走したもので同夜は三春町遊廓島村樓に登樓豪遊をきめ込んで一泊三十日朝貸切自動車で平町に入り前記の如く東京方面に高飛びせんとしたところを郡山署の依賴により手配中の平署員が取押へたもので平署では目下關係方面に照會餘罪取調中であるが同人は殘金三百圓を所持してゐた

商賣仇の手段に
講師を横取
一ト騷動は免れぬらし
平町の染物組合

平町染物業組合では京都上京區土平町の新染應用師平橋留吉氏が來平したのを機として二十九日午前九時から組合長草野七五三之助氏宅で新染の講習會を開催することゝなつたところが當日になつて平橋敎師の姿が見えないので調査したところ前夜原町に無斷で出發したと判明したので大騷ぎを演じたが同敎師がどうして出發したかに疑ひが生じ種々調た處某々組合員四名が二十八日夜ひそかに敎師の宿を訪れ新染應用を修得同氏に旅費を給して既に出發させたことゝわかつたので組合側では非常に憤慨前記四名を除名處分すべしといきまいてゐるが問題が可なり紛糾するものと見られてゐる

私立石城工學寮
諸橋守次氏を主冠に戴き
平町に創立

石城地方には未だ工業方面の學校の設立なく偶々創立を見るも經費の不足と組織の不備より短日月にして廢校の止むなきに至り地方教育上遺憾なりとし識者間に完全なる工業教育機關の設立を提唱されて來たが今回平町に諸橋守次氏を主冠とする私立石城工學寮で設立するに至り機械實行第一を標榜し始め機械科を開講し帝都の模範學校に倣ひ將來綜合せる工業各學科を增設する計劃で平町大町三番地に學寮を置き每夜午後六時より九時半まで每週月、火、木。土曜日に授業し一ケ年半を修業年限として機械工學。設計學。製圖法。原動機。工業英語。工業數學其他に涉る完全なもので寮長以下講師左の如し（寮長）諸橋守治（主學講師）吉田賢吉（講師）工學士溝口貞。醫學士木村淳眞木垣。諸根樟一。志賀德吉、河田正。三輪喜美

記者募集

中學校三學年修業程度の學力ある眞面目にして身体强健なる青年記者二名を募集す（但し平町在住者に限る、保證人を要す）希望者履歷書持參本人午前中に來社あれ委細面談電話・書信の交涉絶對謝絶

營業部員

年齡二十二歲以上、身体强健にして新聞業務に趣味を有する眞面目なる營業部員一名を募集す希望者は履歷書持參本人午前中來社あれ、給料その他委細面談

磐城新聞社

四電合併認可

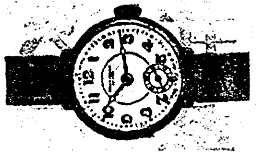
東部電力株式會社と四倉電氣株式會社（被合併）はかねて申請中のところ二十七日附で小泉遞相から認可指令された

伏見町長參拜

平町長伏見彦衛氏は伊勢大神宮に行はれる遷御式特別參拜に列する爲め今一日午後一時二分にて上京した

紅燈街

水戶市上市字谷中下坪はつ方抱藝妓同市生れ島田とり（二六）は情夫同縣久慈郡生れ島峰捨吉（二六）と手を取り合つて廿九日前借金四百圓を踏倒して無斷驅落平町に入り込み心中の惧があるので抱主から一日平署に兩名の捜査方を願ひ出た



時計蓄音器の修理
御用命は
高橋時計工作所
平町土橋通り
大々的勉强示時正確

植田町本町
前田醫院
…入院隨時…
電一二一四番

夜間診療
胃腸
内科
十二指腸虫病
專門
内科部
[illegible]
淋病
婦人病
皮膚病
專門
外科部
松村胃腸性病科醫院
（平町電話一〇七番）

靴の御新調は……今
時節柄……空前の安賣
キカイ製靴より安心なる
定評有る大塚の自製靴を
流行新型ゴロフ形
△ボックス革實用　短靴　七、五〇ヨリ
　　　　　　　　　編上靴　九、〇〇ヨリ
△赤革　スポート　短靴　九、〇〇ヨリ
　　　　　　　　　編上靴　一一、〇〇ヨリ
修繕二十四時間內迅速安價
平町田町
大量製産　堅い店　大塚支店製靴部
電話七〇二番

平町田町
高久病院
電話五一〜三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
内科小兒科、外科花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科